

# 令和8年度 入学試験（総合型選抜）問題

## 国語

受験番号		氏名	
------	--	----	--

- 指示があるまで開かないこと。

令和7年8月8日(金) 9時00分 ~ 9時45分

### 【注意事項】

- 1 試験問題の数は34問です。
- 2 問題用紙及び解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。解答用紙は下記の記入例をみて記入してください。
- 3 解答は、指示に従いすべて解答用紙にマークしてください。問題用紙に記載しても無効です。  
なお、解答用紙には解答欄が50問までであるので、注意してください。35問以降にマークしても無効です。
- 4 試験問題にはすべて5つの選択肢があります。質問に適した選択肢を選び、その番号を解答用紙にマークしてください。  
なお、2つ以上マークした場合は無効となります。

### 【解答用紙記入例】

フリガナ	セイ トウ ハナ コ	年	月	日	国語
氏名	聖 灯 花 子	7	8	8	

### 〔受験番号記入例〕

番 号										問	解 答 欄					問	解 答 欄					問	解 答 欄											
										3	2	0	0	1	1	①	②	③	④	⑤	11	①	②	③	④	⑤	21	①	②	③	④	⑤		
①	①	①	①	①	①	①	①	①	①						2	①	②	③	④	⑤	12	①	②	③	④	⑤	22	①	②	③	④	⑤		
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②						3	①	②	③	④	⑤	13	①	②	③	④	⑤	23	①	②	③	④	⑤		
③	③	③	③	③	③	③	③	③	③																									

※番号欄には、右つめで受験番号を記入し、該当部分の数字をマークしてください。

### マーク例

良い例	悪い例
●	☑ ○ ●

## 令和八年度 入学試験（総合型選抜）問題（国語）

一次の文章は、今年（二〇二五年）三月の新聞に掲載された「科学季評」です。この文章を読んで、後の【1】～【11】の問いに答えなさい。なお、作問の都合上、一部の表現および表記を変えています。

1月に私の所属する総合地球環境学研究所（地球研）の主催で国際シンポジウムが開かれた。テーマは「DNA NCE WITH ALL」（すべてのものとダンスを踊って）。副題として「On Animals and Anima」が付いている。ダンスとは身体表現であり、他者とリズムを同調させながら身体をユウゴウさせるコミュニケーションだ。他者には人間以外の生物、いや非生物も含まれるだろう。人類はるか昔から他者と身体を共鳴させながら世界の動きを感じ取ってきた。その動きこそがアニマと呼ばれるものだ。しかし、言葉を始めとする人間独自のコミュニケーションを発達させることにより、その動きを察知し共鳴する能力を失いつつある。それを復興させ、壊れかかった地球と生物圏を救わねばならない時が来ている、というのがシンポジウムの狙いだった。

シンポジウムは昨年4月に地球研に発足した上廣環境日本学センターのキックオフも兼ねた。センターは人間中心主義を超え、人と自然の未来可能性を探求することを目的として、日本の従来の環境思想を軸に国際的な議論を展開するのが実践課題だ。初日は京都・清水寺で山伏たちのほら貝演奏で「a」を開けた。「あわい」をテーマに、妖怪研究で名高い小松和彦氏と植物の生き方に着目した新しい哲学をティショウするエマヌエール・コッチャ氏がキチヨウ講演した。

さて、「あわい」とは何だろう。「間」とか「淡い」と書くが、どちらともつかぬ、はっきりしない状態を指す。二分法の「b」、「という言い方とは違い、あいまいさや「間」を許す考え方と言ってもいいだろう。」実はこれが他者との会話、とくに人間以外の生物との会話には重要なのだ。

私は長年、ニホンザルやゴリラといった人間の言葉を話さない動物たちを調査してきた。彼らが進化してきた日本やアフリカの森林で、群れの中に入り、彼らとコミュニケーションをとりながら暮らしぶりを観察する。それに必要なのは「言葉で理解しない」ということだ。彼らも声や身ぶりで気持ちや意図を伝え合うし、私も彼らのリュウギで自分も同調する意思があることを伝える。よくわからないことやあいまいなことが常に付きまとうが、別に困らない。あいまいなことをあいまいままに許容することが必要なのだ。サルやゴリラたちは人間の感覚では捉えられないことを、行為で示してくれる。例えば、やぶの中に身を潜めるゾウや鳥のかすかな息遣いや動きを察知したり、緑の天蓋にカクされたおいしそうなフルーツを見つけたりする能力だ。とくに、他の生物たちとどう調和しながら生きていくかを教えてくれる。

私たちは、人間以外の動物が本能によって環境を認識し、生まれつき決められた行動によって機械的に反応しているのを見なしてきたが、彼らは明らかに考え、意図的に行動している。人間に近い中枢神経系をもつ霊長類や哺乳類だけでなく、クラゲやイソギンチャクなどの散在神経系をもつ動物、動けない植物でさえ、環境の変化に彼らなりのやり方での確に反応し、生き方を臨機応変に変えている。生物は炭素を主要な構成成分としているが、地球の炭素総量の82%を植物、13%をバクテリアが占めており、動物は0・4%、人間は0・01%に過ぎない。その人間が地球環境に絶大な影響をもたらしているのだから、地球の生物圏の安定にとって由々しき問題なのだ。地球研は2019年に「自然は考えるか?」、22年には「自然と暮らす術」をテーマに国際シンポジウムを開いてきた。繰り返し強調されてきたのは、人間以外の生物が生きるための「智慧」を人間以上に持っていることだ。気候変動が激甚化して人間や他の動物が減びても、植物は生き残るだろう。バクテリアはこれまでとは全く違う生物を創り出すかもしれない。

人間はこれまで自分たちの能力が及ばない世界をアニミズムとして取り入れてきた。そこでは、動物たちや妖怪たちが主役となって異世界を作る。それは非科学的と見なされ、現実世界にはそぐわないと等閑視されてきたが、これから人間以外の生物と調和し共存するためには必要な観念として見直されるべきではないか。世界では、これまで絶滅してしまった動物たちを野生復帰させて、生態系の力を回復させようとする動きが出てきている。

そのとき、昔からの言い伝えや昔話が野生の智慧を伝えてくれるかもしれない。

近代の科学はすべての出来事の動きを止め、言葉によって要素に切り分け、それぞれの機能を分析することに傾注してきた。c、それらはすべて様々な動きの中にあり、相互に関連し合っているという事実には私は気づきつつある。生物どうしや生物と非生物との関係は、長い地球の歴史の中で形作られてきたもので、人間の力で簡単に作りかえられるものではない。食料生産、都市の文明化、産業革命・通信情報革命によるグローバル化と、自然に大きく手を入れてきた人間は、今こそ立ち止まって自然の豊かな関係性と動きに真摯な目を向けるべきだと思う。レイチェル・カーソンが警告した「沈黙の春」は、動物たちの声や音が聞こえなくなる世界だった。それは今、植物や菌類にも及ぼうとしている。自然の本質である「あわい」に目を向け、耳を澄ます時代なのだ。

(山極寿一「科学季評」・朝日新聞二〇二五年三月十三日掲載)

【1】 二重傍線部(1)～(5)のカタカナと同じ漢字を書くものを、次のそれぞれの選択肢①～⑤の中の傍線部分から選び、

その番号をマークしなさい。【解答欄は問1～5】

1 ユウゴウ

- ①本市にIT企業をユウチする。
- ②物価高で生活にヨユウがない。
- ③今日一日ユウウツな気分でごす。
- ④どんな時でもユウゼンと構えている。
- ⑤中小企業に運転資金をユウシする。

2 テイシヨウ

- ①家業をケイシヨウする。
- ②参考文献をシヨウシュツする。
- ③校歌をセイシヨウする。
- ④友人を自宅にシヨウタイする。
- ⑤法廷でシヨウゲンする。

3 キチヨウ

- ①経営がキドウにのる。
- ②朝のキシヨウ時間だ。
- ③看護学のキホンを学ぶ。
- ④学校の研究キヨウを刊行する。
- ⑤楽しい催しをキカクする。

4 リュウギ

- ①外交ギレイに反する行為だ。
- ②多くのギセイ者が出ている。
- ③被災者支援のイギを考える。
- ④あの男のギマンに満ちた言動。
- ⑤この新学説にはギモン点が多い。

5 カクされた

- ①両国のインネンは浅くない。
- ②キャクインを踏んでいる歌詞。
- ③インエイに富んだ人物描写。
- ④今後一切支援しないとインドウを渡す。
- ⑤会社の不祥事をインペイする。

【2】 傍線部ア、イ、ウの語句の本文における意味として最も適当なものを、それぞれの選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問6～8】

【6】 ア 由々しき

- ① 現実のこの世界の中では絶対にあるはずがない
- ② そのままでは取りかえしのつかないことになる
- ③ 人間の行動としてはあまりにも不可解きわまる
- ④ 命あるものを守るため決して許してはならない
- ⑤ いろいろなことが複雑多岐にからみあっている

【7】 イ 等閑視されてきた

- ① 全く注意をはらわれることがなかった
- ② 一定の距離を保って見つめられてきた
- ③ 一切関わりたくないと思われてきた
- ④ 憎しみの対象として取り扱われてきた
- ⑤ 災いをもたらすものと怖れられてきた

【8】 ウ 傾注

- ① 存在するすべてのものを囲い込むこと
- ② 世の中のあらゆる人の目が集まること
- ③ 一つのものごとにこだわり続けること
- ④ かたよった見方で物事をとらえること
- ⑤ 一つのことだけに精神や力を集中すること

【3】 空欄 a に当てはまる漢字として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問9】

【9】 ① 門 ② 扉 ③ 目 ④ 幕 ⑤ 心

【4】 空欄 b に入る慣用表現として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問10】

【10】 ① 黒いものを白いもので包む

- ② 黒白を弁ずることができない
- ③ 白黒をはっきりさせる
- ④ 黒白入り乱れる
- ⑤ 黒衣に身をつつむ

【5】 空欄 c に入る接続詞として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問11】

【11】 ① だから ② しかし ③ なぜなら ④ さらに ⑤ それでも

【6】 波線部A「アニマ」について本文ではどのように説明していますか。最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問12】

- ① 人間同士が他者とリズムを同調させることでコミュニケーションをとってきた身体表現。
- ② 人間以外の生物が自身の存在と人間の身体活動を共鳴させながら交流を深めてきた行為。
- ③ 人間が言葉以外の伝達手段によって世界に存在する全ての生物の動きと共鳴させる活動。
- ④ 人類が地球上のさまざまな存在との間で、身体を媒介として感じ取ってきた世界の動き。
- ⑤ 人類が誕生以来世界の生物や非生物の動きと自身の身体とを同調させて生きてきた歴史。

【7】 波線部B「実はこれが他者との会話、とくに人間以外の生物との会話には重要なのだ」とありますが、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問13】

- ① 人間の言葉を話すことができない野生動物たちと正確に理解し合えるコミュニケーションをとることは、どうしても不可能なことであるから。
- ② 日本やアフリカの森林の中で暮らす野生動物たちが気持ちや意図を伝え合うための手段である音声や身振り自体あいまいなものであるから。
- ③ あいまいなことをはっきりさせずにいることこそが、野生動物たちの群れの中に溶け込んで人間が安全に生きていく有効な方法であるから。
- ④ あいまいなことをそのままにしておくことによって、人間も野生動物たちが持っている感覚に近い暮らしを送ることができるようになるから。
- ⑤ 人の言葉と話さない動物たちとコミュニケーションを取りながら生きていくためには、あいまいなことをそのまま許容することが必要だから。

【8】 波線部C「人間以外の生物が生きるための「智慧」を人間以上に持っていることだ」とありますが、この「智慧」の事例として適当ではないものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問14】

- ① 動物たちが本能で生きている環境を認識し、決められた行動によって機械的に反応する能力。
- ② 地球環境が大きく変化したときに、その環境の中で生き残る生物を創り出すバクテリアの機能。
- ③ 気候が激しく変化してもそれに的確に反応して生きのびることができる植物の適応力。
- ④ 緑色の大きな葉で覆われている樹上になる果物を見つけたことができるサルやゴリラの能力。
- ⑤ 生い茂る草木の中に身を潜めるゾウや鳥のかすかな息遣いや動きを察知できる類人猿の能力。

【9】 波線部D「これから人間以外の生物と調和し共存するためには必要な観念として見直されるべきではないか」とありますが、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問15】

- ①アニミズムは、非科学的だからこそ、科学とは無縁で生きている人間以外の生物たちと交流するために有効であるから。
- ②アニミズムは、人間以外の生物たちが人間以上に持っている生きる「智慧」を私たちに教えてくれる可能性があるから。
- ③アニミズムは、近代の科学とは正反対の位置に立っているからこそ、科学を超越した世界を創造することができるから。
- ④アニミズムは、気候変動の激甚化によって起こりかねない人類滅亡を回避する方法を暗示してくれるかもしれないから。
- ⑤アニミズムは、人間がつくりあげた観念にすぎないので、環境の変化によっていかようにも解釈することができるから。

【10】 本文で筆者が主張していることとして最も適当なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問16】

- ①近代以降、科学の力によって地球をつくりかえてきた人類は、生物圏を安定させるために、妖怪や動物たちの異世界と共存を図るべきだ。
- ②私たち人類は、近代の科学が犯してきた自然破壊の過ちを認め、産業革命以前の生態系が持っていた力を回復することに取り組むべきだ。
- ③自然をつくりかえてきた近代の科学の発展を止めることはできないので、むしろ科学の力を利用して自然を修復する方法を模索するべきだ。
- ④私たち人類は、自然を人間の力をつくりかえることなど不可能であることを自覚し、自然が持っている回復力を最大限活用していくべきだ。
- ⑤私たち人間は、近代の科学によって、自然を壊してきたが、今こそ立ち止まって自然の豊かな関係性と動きを、心の底から見直すべきだ。

【11】 本文を読んだ高校生Xさんは、レイチェル・カーソン『沈黙の春』の日本語訳を読み、次のようなレポートを作成した。これについて、後の小問1、2に答えなさい。

『沈黙の春』を読んで —— 「科学季評」との共通点を考える

(4) 私が考えたこと

(2)で引用した三人の研究者が述べていることと、(3)で引用した著者の述べていることに共通しているのは、  
「 I 」という考え方である。  
さらに、問題文の「科学季評」で山極氏が述べていることと『沈黙の春』に述べられていることでは、  
次のことが共通している。

II  
この姿勢は、私たちがこれから生きていく地球環境を守るために忘れてはならないことである。

小問1 空欄Ⅰに入る文として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問17】

- ①人間が開発した化学薬品によって地球上の人間以外の生命体は絶滅してしまったのだから、その使用は今後中止すべきだ。
- ②地球は私たち人間だけが住んでいるのではないのだから、人間は全ての生命体を保全するために自然を制御すべきである。
- ③宇宙の中で生命が存在するのは地球だけであり、人間はその命あるものの中で光り輝いているかけがえのない存在なのだ。
- ④私たち人間も自然の中の一員であり、人間が他の自然界の存在よりも優位に立っているなどという考えを捨て去るべきだ。
- ⑤すべての生命は等しい価値をもっているが、人間が多くの生命を滅ぼしてきたという反省に立って自然を再創造すべきだ。

17

小問2 空欄Ⅱに入る文として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問18】

- ①人間は、この地球のすべての自然のあり方から多くのことを学びとろうとする姿勢が重要だということ。
- ②この地球は人間だけのものではなく、人間以外の生物や非生物は人間以上の価値を持つのだということ。
- ③自然環境自体に多様な生命のバランスをとる機能が備わっているので、それを活用すべきだということ。
- ④科学者は化学薬品の使用などにより個体数を制御しているが、もっと謙虚な心を持つべきだということ。
- ⑤現実の世界にはそぐわないアニミズムの世界は非科学的だが、尊敬の念を失ってはならないということ。

18

二次の文章を読み、後の【1】～【11】の問いに答えなさい。なお、作問の都合上、一部の表記を変更しています。

長い出張から久しぶりに京都に戻った。つい数時間前まで椰子の木が立ち並ぶ日南の海岸沿いを車で走りながら、宮崎の雄大な自然を前にして **a** をのんでいたのだった。そのすべても、いまは遠い記憶の彼方だ。雨の降る東山のフモトには、ただ蛙の鳴く声だけがする。疏水の上を、螢が一匹飛んでいる。

家に着くと、とっくに眠ったはずの息子を起こさないよう、僕は慎重に玄関の戸を開いた。腕には、宮崎の高校生たちにももらった大きな花束がある。百合の甘い香りが室内に広がる。今日は、宮崎の高校で講演をしたのだ。玄関の明かりを消したまま、音を立てないよう手探りで戸の鍵をそっと閉める。

そこに、たったたった、と元気のいい足音がした。フトン<sup>(2)</sup>を飛び出し、息子が玄関に駆けてきた。十一時近くだというのに、まだ起きていたみたいだ。花束を抱えた僕を見上げ、「おとーさん、じょーずにおはな、とってきた!」と、目を丸くしながら彼は叫んだ。口調が、最後に聞いたときより随分大人びている。二歳三ヵ月になった息子と、六日ぶりの再会である。

白川静の『文字講話Ⅰ』(平凡社ライブラリー)によれば、「かぞへる」という言葉はもともと「か+そへる」で、一日ずつ、二日<sup>ふっか</sup>、三日<sup>みっか</sup>と、過ぎ去った日に「か」の音を「そえ」ていくことに由来するらしい。楽しみな日を待ち焦がれながらかぞえる。過ぎ去った日の記憶を反芻しながら、姿なき時の流れに一つずつ「か」をそえていく。そうして古代の人たちは、**①** 茫漠とした時間の流れに、**②** 形を与えようとしたのだろうか。

息子が一歳半を過ぎた頃から、二人で風呂で、**③** イッショに数を数えるようになった。肩まで湯に浸かり、声を合わせて「いち、に、さん、し、ご、ろく、なな、はち、きゅう、じゅう!」となえる。もちろん彼は、まだ数の概念を理解してはいない。

先日も朝ごはんに並んだパンケーキを指して「何枚ある?」と聞いてみた。息子は、五枚しかないパンケーキを指差しながら「いち、に、さん、し、ご、ろく、なな!」と、自信満々に「数えて」みせた。

出張に出る前、僕は息子に、「来週帰ってくるからね。今回は長めの留守番になるよ」と伝えた。そのとき息子は、少し考えるようなそぶりをしたあと、「おとーさん、いいこにしててね!」と、僕を明るく見送ってくれた。六日ぶりに息子を抱き上げ、**A** 「あれから毎日、この日を楽しみにかぞえていたよ」と、僕は心の中で言った。

数えることのできない息子に、世界はいまどう見えているだろうか。おやつのに食べるクッキーの数を、いつもより一枚だけ減らしてみたとき、彼はそれに気づく様子もなく、ただ大切そうに一枚ずつ、いつものように夢中になって食べていた。**B** 寝る前、「今日は何して遊んだ?」と聞いても、彼は平気で昨日や一昨日のことを言う。彼は、自分の生きる時間にかをそえることをまだ知らないのである。数で分節される前の世界を、彼は僕よりはるかに「いま、ここ」に集中しながら生きている。

数には、人の心の向きをそろえる働きがある。「六日後に会おう」と約束すれば、まだ来ぬ時間に向かって心が揃う。「右から二本目の椰子の木」と言えば、会話している二人の注意が、同じ木の方へ揃う。数は世界を切り分け、その切り分け方に応じて、人の心の向きを揃えていくのだ。

子どもは数を覚える前から、人と心が揃う喜びを知る。息子がしたがる遊びの多くは、ただ純粹にこの喜びを味わう遊戯だ。

僕がシャワーを浴びているとよく、息子が浴室のガラス戸の向こうから「たち!」と、手のひらを戸に当ててくる。曇りガラスの向こうに、小さな手のひらがうっすらと浮かぶ。僕も「たち!」と言って、ガラスの反対側から彼の手の上に自分の手を重ねる。今度は、彼が足の裏を「たち!」と言ってガラス戸にくっつけてくる。僕もすかさず「たち!」と同じ場所に足を当てる。**b** このくり返しである。手でタッチされたら、手で返す。足でタッチされたら、足で返す。二人のあいだにルールが生まれ、彼はそのルールに気づき、それを分かち合うことを楽しんでいる。

人は他者と共鳴し、共感しながら、社会を生きる存在である。人の振る舞いを予測し、予測されながらやりとりするうちに、自然とそこにルールが生まれる。人と会ったらいさつをする。食事が終わるとごちそうさまという。すべては、時代や場所によって移り変わるルールだ。明文化された法律だけでなく、私たちは他者とのやりとりを通して生成するルールに気づき、それに従い、ときにはそこからあえて逸脱しながら生きていく。

息子はまだ数の意味を理解していないが、やがて数を身につけ、「計算」することだって覚えていくだろう。計算するには、ルールを理解し、それを正確に守る必要がある。何気ない遊びのなかで、そのための準備はすでに始まっているのだ。

全国各地で子どもたちに向けて講演するとき、僕は彼らの潑刺としたエネルギーに力をもらおうと同時に、明るい希望だけを語ることでできない自分にもどかしさを感じる。彼らが子や孫を持つ頃、世界はどう変わっているだろうか。はたして平和で安全な暮らしができるだろうか。僕には正直、まったく予測がつかないのである。

人と人のやりとりからルールが生まれる。そのルール自体が、時代の変化とともに変容していく。それまで当たり前と思われていたことが、時代の移り変わりとともに崩れ去っていくこともある。

教育や医療、環境や経済、政治やメディアなど、いまあらゆるところでキソンの制度が壊れつつある。これからは与えられたルールに適應するだけでなく、新しいルールが生成していく場面に、参加していく力が求められるだろう。

数を覚え、計算を学び、ルールに従って記号を操作していく。それももちろん大切なことだが、そもそもルールがどこから生まれ、何を目指して共有されているのか、そのことを自覚できなくなっては元も子もない。

数を通して心を揃え、「いま、ここ」よりも広い場所へと想像力を解き放っていくこと。数に使われるのではなく、数が使いこなせるようになるのは、決して簡単なことではないのだ。

僕たちは数えることができるずっと前から、人と共感し、共鳴することを楽しんできた。数で世界を分節する前から、人と心が揃うことを喜んできた。数と計算が隅々にまで行きわたった世界が、同時に血の通った場所であり続けるためにも、数を知る手前で無邪気に遊んだ、あの原風景を忘れずにいたい。

(森田真生「かぞえる」・『数学の贈り物』所収)

【1】 二重傍線部(1)～(4)のカタカナと同じ漢字を書くものを、次のそれぞれの選択肢①～⑤の中の傍線部分から選び、

その番号をマークしなさい。【解答欄は問19～22】

- ① サンキョウを下る急流。  
② サンカクで暮らす。  
③ 北アルプスのサンミヤク。  
④ サンロクの宿に泊る。  
⑤ サンリョウの木々。

- ① 寺院のカイダンを登る。  
② 家族ダンランの時間。  
③ 友人とダンショウする。  
④ カダンに種をまく。  
⑤ 社長のドクダンで決まる。

20 (2) フトン

【21】(3) イッシヨ

- ① 応急シヨチをする。
- ② シヨミンの生活を支える。
- ③ シヨテイの手続きをとる。
- ④ 問題解決のタンシヨとなる。
- ⑤ シヨハンの事情で延期する。

【22】(4) キソソ

- ① 駅に着くと、列車はスデに出発していた。
- ② 多くの子どもたちがウエに苦しんでいる。
- ③ 昔この町で起きたイまわしい事件。
- ④ 世界の平和を神仏にイノる。
- ⑤ スピード違反のアブない運転。

【2】 傍線部ア、イ、ウの語の意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。なお、ア「反芻」は「はんすう」と読みます。【解答欄は問23～25】

【23】ア 反芻

- ① 深く刻みつけること。
- ② 何度も思い出すこと。
- ③ 深く反省すること。
- ④ 長く悩み続けること。
- ⑤ 繰り返し味わうこと。

【24】イ 茫漠

- ① 気が抜けて身動きとれないでいるさま。
- ② あっけにとられてものも言えないさま。
- ③ ぼんやりとしてはっきりとしないさま。
- ④ 果てしなく広がり見晴らしの良いさま。
- ⑤ ばらばらでまとまりに欠けているさま。

【25】ウ 逸脱

- ① はじめてのものをつくり出すこと。
- ② 決められた範囲からはずれること。
- ③ よりよい方向に向かって進むこと。
- ④ 元々いたところに戻っていくこと。
- ⑤ 他の人の真似をしないでいること。

【3】 空欄aに入る語として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問26】

【26】① 耳

- ② 目
- ③ 舌
- ④ 声
- ⑤ 息

【4】 空欄bには、「ずっと続くさま」を表す語句が入ります。最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問27】

【27】① 延々と

- ② 悶々と
- ③ 懇々と
- ④ 深々と
- ⑤ 淡々と

【5】波線部A「あれから毎日、この日を楽しみにかぞえていたよ」とありますが、この部分に込められた筆者の心情として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問28】

①帰宅直後、深夜にも拘わらず出迎えてくれた息子と、六日間の出張中ずっと待ち望んでいた再会を果たし、愛おしくてたまらない心情。

②六日間父親と会えない寂しさを我慢し、夜遅くまで起きて帰宅するのを待っていてくれた息子に、申し訳なさいで一杯になっている心情。

③六日間会わないうちに随分大人びた口調になった息子の成長を喜ぶとともに、だんだんと自分から離れていく寂しさを感じている心情。

④宮崎の高校生がくれた花束を見て目を丸くしながら喜んでいる息子に、花の美を感じる心が育っていることを発見し感動している心情。

⑤夜遅く出迎えてくれた息子が、「おとーさん」と、六日前の見送りのときの同じように明るく呼びかけてくれて安心感を抱いている心情。

【6】波線部B「自分の生きる時間にかをそえること」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問29】

①過去の日々のできごとを一日単位で切り分け、整理し、記憶として頭に刻みつけていくこと。

②おやつで食べるクッキーの枚数を、毎日数え、昨日と今日との違いを明確に判断できること。

③自分が生きた時間の流れを、一日という単位で区分して捉え、一日ずつ形を与えていくこと。

④今日したことと昨日したことを混同することなく、自分の行為を自律的に認識できること。

⑤これから先に訪れるはずの楽しみな日を想像し、それを糧として今日一日を生きていくこと。

【7】波線部C「そのための準備」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問30】

①子どもが数を数え、計算することを通して人と円滑に交わることができるようになるための準備。

②人が社会を生きるうえで、他者との間に生まれるルールを理解し、正確に守れるようになる準備。

③時代や場所によってルールが変化していくことを理解し、臨機応変に行動できるようになる準備。

④挨拶や食事のマナーなど、社会生活を営むのに必要な人類共通のルールを身につけるための準備。

⑤人が他者と心を揃えて、同じ目標に向かって突き進んでいくことができるようになるための準備。

【8】波線部D「新しいルールが生成していく場面」とありますが、その具体例として適当ではないものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問31】

①急速に発達したSNSで、嘘の情報を意図的に拡散させたり不正な使用をしたりすることに対処するルールづくり。

②グローバル化によって感染症が一気に広まりやすくなっている世界で、新たな感染症の流行に備えるルールづくり。

③多様化が進む社会において、外国にルーツがある人々や障がいのある人々が暮らしやすくなるためのルールづくり。

④地球規模の気候変動が進行する世界において、二酸化炭素の排出を各国が制御していくための新たなルールづくり。

⑤失われていく地域社会のつながりを取り戻すために全ての住民が町内会への参加を義務化するためのルールづくり。

【9】波線部E「何を目指して」とありますが、その「目指して」いることを、本文中の語句を用いて説明したも  
のとして、最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問32】

- 32
- ① 「数を覚え、計算を学び、ルールに従って記号を操作していく」ことができるようになること。
  - ② 「人の振る舞いを予測し、予測されながらやりとりする」中で新たなルールを生み出せること。
  - ③ 「数の概念を理解」できるようになり、「世界を切り分け」ることができるようになること。
  - ④ 「数を通して心を揃え、『いま、ここ』よりも広い場所へと想像力を解き放っていくこと」。
  - ⑤ 「平和で安全な暮らし」という「明るい希望だけを語ること」ができるようになること。

【10】波線部F「あの原風景」とありますが、その説明として、最も適当なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、  
その番号をマークしなさい。【解答欄は問33】

- 33
- ① 長い出張に出かけた親が帰ってくる日を指折り数えて待ち望んでいた「風景」。
  - ② 純粹に人と心が揃う喜びを味わう遊びを楽しんでいた子どもの「風景」。
  - ③ 数で世界を切り分け、その切り分け方に応じて人々の心が揃っていた「風景」。
  - ④ 「か」をそえることで流れていく時間に形を与えようとした古代人の「風景」。
  - ⑤ おやつのお菓子の数の違いを気にすることもなく夢中で食べていた「風景」。

【11】次の選択肢①～⑤の中で、本文中で筆者が述べていないことを一つ選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問34】

- 34
- ① 数や計算が行き渡った世界が、同時に人が人と共鳴、共感しながら生きていく喜びを感じる場所であ  
り続けてほしい。
  - ② 数えることや計算することはルールに従って記号を操作することだが、それ自体が目的となってしまう  
てはいけない。
  - ③ 息子はまだ数えることができないが、数で切り分けられていない世界を大人の自分よりもずっと集中  
して生きている。
  - ④ 人と人との関わりの中からルールは生まれるが、時代の変化によって、そのルール自体が崩れ去って  
いくこともある。
  - ⑤ 数は人の心を同じ方向に揃えて社会性を養う機能があるので、幼い頃から数の概念を理解できるよう  
に教育すべきだ。